

平成 28 年 11 月 29 日

各位

会 社 名 株式会社フード・プラネット  
代表者名 代表取締役社長アンドリュー・ネイサン  
(コード：7853 東証第二部)

問合せ先 取締役 カトリーナ・ビニヤスカ  
(TEL. 03-4577-8701)

## 事業の現状、今後の展開等について

当社は、下記の通り、事業の現状及び今後の展開等について、株式会社東京証券取引所に対し、同社有価証券上場規程第601条第1項第4号a本文に定める書面を提出いたしましたので、お知らせいたします。

本書面の提出により、平成29年5月末日までのいずれかの月において、月額平均時価総額および月末時価総額が10億円以上になった時は、同上場廃止基準に該当しないこととなります。

当社はこの度、時価総額基準に抵触いたしましたが、下記「2.今後の展開について」に記載いたしました事業計画の推進により、業績の向上を図り、市場の信頼を回復することによって、今後とも東京証券取引市場第二部上場を維持するよう努めてまいります。

### 記

#### 1.事業の現状について

##### (1)経営の基本方針

当社は、海外の飲食ブランドを日本国内外で店舗展開する他、札幌市内における複数の自社ブランドの運営を通じ、飲食事業の国内外における多様な展開を目指しております。

##### (2)当社事業の現状

当社が子会社・関連会社等を通じて運営するブランド・業態の概要は以下の通りとなります。

##### ①国内自社ブランド事業

株式会社キューズダイニング（以下「キューズ」といいます。）では、札幌市内にて、日本食・バー・イタリアン等、特色ある 16 店舗を運営しております。

## ②海外ブランドの運営

アメリカントラディショナルスイーツをコンセプトとするマグノリアベーカリー（日本国内 1 店舗）をはじめとして、オーストラリア発のアイスクリームブランドであるナイトロジーニー（ハワイにて 1 店舗を運営）、韓国をはじめとするアジア地域で著名な鳥から揚げ店キョチョン（現在は店舗無）等、海外のブランドとライセンス契約を締結し、それらを日本国内外にて 4 店舗展開しております。

## (3)業績の推移

当社は、フード事業強化の一環として、本年 6 月 30 日付にて株式会社レッド・プラネット・ジャパン及びその他株主が保有する株式会社レッド・プラネット・フーズの株式を取得し、上記の通り複数のブランドを子会社及び関連会社を通じて保有いたしました。しかしながら、取得した事業は開店後間もない店舗等も多く、安定的に事業収益を確保するに至らない状況であります。また、株式取得時の事業計画に対して、その後の進捗が著しく遅延している店舗等もありますが、その要因としては、当初事業計画に対する精査が不十分であったこと、その後の資金調達が計画通りにいかず、新規出店、店舗リニューアル、人員の確保などに支障が出たことが挙げられます。

このような状況の下、のれんの再評価を含め、平成 28 年 9 月期財務諸表について、現在、監査法人との間で検討をしております。

### 平成 28 年 9 月期第 3 四半期までの業績推移

決算期（単位：千円）	平成 26 年 9 月期	平成 27 年 9 月期	平成 28 年 9 月期 第 3 四半期
売上高	81,412	519,410	15,971
営業損失（△）	△181,030	△140,552	△231,288
経常利益又は経常損失（△）	△280,429	△137,231	△255,806
当期純利益	△249,592	△132,751	△313,226
純資産額	109,804	187,053	△89,834
総資産額	279,512	214,227	4,266,259

## 2.今後の展開について

### (1) 事業別の進捗と見通しの精査

現在当社では、平成 28 年 6 月 30 日以降の株式会社レッド・プラネット・フーズ傘下の各事業・店舗について、その定量的、定性的分析を行い、今後の注力事業と、そうでない事業を社内にて再評価しております。その評価結果によって、資源を集中する事業を定め、

売上利益を伸ばし、一方でそうでない事業については縮小売却を検討し、連結業績としてのコスト削減を図っております。

具体的な検討過程としては、前述 1. (2) ①に記載する、株式会社キューズダイニング（以下「キューズ」といいます。）は、当初計画では、平成 28 年 7 月～9 月期の予想 EBITDA（営業利益+減価償却費）を 2,066 千円と見込んでおりましたが、実績では 20,874 千円と、大きく上回っております。

キューズは、札幌市内にて安定した売り上げを獲得しており、収益の重要な基盤になっておりますが、店舗増が見込めるブランドと比較的利益が少ないものが明確になってきております。

今後は、より利益が見込めるブランド、店舗へ注力することにより、連結業績への寄与度を高めていきます。

また、表参道でカップケーキ店マグノリアベーカリーを運営する株式会社スイートスターは、平成 28 年 1 月期～3 月期、4 月期～6 月期につきましては、予想 EBITDA を上回る実績を上げております（予想 EBITDA△31,568 千円に対して実績△30,109,円）が、7 月期～9 月期にかけては、予想を大きく下回る実績となりました（予想 EBITDA△5,501 千円に対して実績 EBITDA△15,687 千円）。しかしながら、今後、よりの確なマーケティング戦略を策定することによって、業績が伸長する可能性が十分にあると判断しております。一方で、同じレッド・プラネット・フーズ傘下の株式会社チキン・プラネットは、平成 28 年 7 月～9 月期の予想 EBITDA（営業利益+減価償却費）が 2,134 千円でしたが、実績としては 18,036 千円の赤字に終わっております。資金不足により、新規店出店などができなかったなどの事情はありますが、当初計画に対して実績が下方へ大きく乖離しております。また、スイートスターハワイは、平成 28 年 7 月期～9 月期こそ、予想 EBITDA の△334,390\$に対して△163,894\$と、実績が上回りましたが、同年 4 月～6 月の EBITDA が、予想の 39,346\$に対して△227,878\$であり、その差異の要因が不明確でした。同社に関しては、地域的な問題も含め、今後の予実管理が困難であり、当社グループで安定した収益を生み出すことは難しいと感じております。同様に、アイアンフェアリーズ社も、平成 28 年 7 月期～9 月期は予想 EBITDA が△5,154 千円に対して実績が△6,524 千円に終わりました。同社の予実乖離率は中程度であったものの、今後の継続的な黒字化を見込める可能性は低いと見ております。

当社は今後、このような当初予想と実績の差異、及び、各事業の定性的情報を元に、積極的に事業戦略を決定して参りますが、現在のところ、キューズダイニング、スイートスターを、平成 29 年 9 月期以降の注力事業として積極的に事業展開を進めると共に、チキン・プラネット社、スイートスターハワイ、アイアンフェアリーズ社については、今後、整理縮小など様々なコスト低減の為の施策を講じていく予定でおります。

## （2）事業計画の立案

上記事業の見直しなどにつきましては早急に詳細な具体策を決定し、それに基づき、現

在策定中の事業計画・資金計画・投資計画などを決定し、平成 28 年 12 月 28 日の定時株主総会までに、より全体的な事業計画・投資計画を策定したいと考えております。

### 3.今後の見通し及び上場維持について

#### (1) 業績回復への取り組み

今後も厳しい事業環境が続くことが予想されますが、上記の取り組みにより、キューズダイニング等注力事業の業績が通年で寄与する平成 29 年 9 月期以降、早期に営業黒字を達成すべく、上記 2 で記載した通り、大胆な取り組みを行う所存でおります。

#### (2) 内部管理体制の強化

また、当社が株主をはじめとしたステークホルダーの皆様の信頼回復、及び企業価値の向上を実現するには、内部管理体制の大幅な強化が欠かせません。本年 6 月 28 日に公表いたしました「不適切な会計処理に係る改善計画・状況報告書及び、平成 27 年 3 月 19 日開示の不適切な開示に対する改善内容と改善状況の報告について」等に記載しました施策を着実に進めて参ります。

#### (3) 財務体質の強化

当社は、平成 28 年 9 月期決算において債務超過となる見込みです。当該債務超過の状況を脱するため、債権者をはじめ、各ステークホルダー、投資家などに対して、当社グループの再生を訴えてまいります。また、その前提となる事業計画等を策定し実行して参ります。

これらにより、当社株式の月額平均時価総額及び月末時価総額について、株式会社東京証券取引所の定める基準を上回ることにより、今後とも東京証券取引所第二部上場を維持するよう努めてまいります。

以上